

下妻市定例教育委員会（令和５年９月２５日）会議録

１．開催日時	令和５年９月２５日（月） 午後３時００分 開会 午後４時１５分 閉会
２．開催場所	下妻市役所本庁舎 ３階 会議室３－２
３．出席委員	教 育 長 中山 均 教育長職務代理者 齊藤 修一 委 員 青木 明美 委 員 赤荻 由美 委 員 山口 政志
４．委員以外 の出席者	教育部長 横瀬 哲彦 教育部参事 圓崎 佳江 学校教育課長 國府田 聡 生涯学習課長 佐久間 秀樹 図書館兼公民館長 吉 川 淳 学校教育課長補佐 板橋 孝子 学校教育課係長 高崎 みゆき（欠席）
５．議事録署名人	齊藤 修一委員
６．協議事項 及び研修	（１）各課からの報告事項について
７．議事の概要	
教育長	９月の定例会を開会します。 本日の議事録署名人は齊藤委員さんをお願いします。 各課から諸般の報告をお願いします。
教育部参事	【指導課から報告】 ・修学旅行について ・感染症による学級閉鎖の状況について
教育長	続きまして、学校教育課からお願いします。
学校教育課長	【学校教育課から報告】 ・関東鉄道からの反射材の寄贈について

	<ul style="list-style-type: none"> ・東部中学校卓球部員の全国大会の出場について ・学校の適正規模適正配置基本計画と学校給食施設整備方針について
教育長	生涯学習課からお願いします。
生涯学習課長	【生涯学習課から報告】 <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度下妻市文化祭について
教育長	公民館図書館からお願いします。
図書館兼公民館長	【公民館・図書館から報告】 <ul style="list-style-type: none"> ・第24回公民館祭りの開催について ・図書館における秋のイベント企画の内容について
教育長	続きまして、教育委員さんが過日、オンライン研修に参加していただきましたので、その研修について、お話いただければと思います。山口委員さんお願いします。
山口委員	<p>全国の教育委員のオンライン研修で、分科会2つに参加させていただきました。まず、いじめ対策不登校支援についてなんですが、その中で甲賀市の教育委員さんの話が、とても印象に残りました。コミュニティスクールのお話がでて、それぞれ学校がたくさんあるんですが、全体がとてもよくまとまっているというお話でした。それぞれに特徴があって、お互いを理解し合っているという、人数が少ないところや大きいところがあっても、全部1つのチームになっているというのを感じました。また、忍者の町で、外国人がすごく増えてきて、日本文化と外国人の文化が少し混ざってきていて、外国の文化も取り入れてきているというお話もありました。また、子供の居場所として、「ばあちゃん家」というのが、すごく良い事業だと思いました。資格試験があり、認定になったおばあちゃんのところに、学校に行けない子がそこに行って、居場所を作ってあげている、そこで何をしてもいい、勉強したければ勉強していい、遊びたかったら遊べばいい、自分がやりたいことをやるというような取り組みをしているというのを聞いて、とても良い事業だと思いました。</p>
教育長	赤荻委員さん、お願いします。

赤荻委員	<p>文科省による行政説明については、動画の配信と資料の配布がありましたので事前に拝見させていただいていました。分科会は、6市町村位ずつのグループに分かれて、各々の自治体の取り組みの紹介や質問や情報交換を行った形です。</p> <p>話し合いの中で、現実的に児童生徒の人数の減少に伴う今後の学校の在り方を、それぞれが模索しているという話題になりました。多角化する学校経営や、支援員の人材確保が難しいといった現状や、財源をどうするかといったようなお話もありました。また、適正規模適正配置についてのタイミングをすごく意識して話し合いを進めているという自治体もありました。同じような課題を抱えつつ、どのように対応してきたかといったような具体的な事案とか方法も教えていただけて、すごく勉強になりました。大変、有意義な研究会だと思いました。</p>
教育長	齊藤委員さん、お願いします。
齊藤委員	<p>オンライン研修の一つ目の分科会のテーマは、いじめ対策不登校支援についてでした。いじめについては、早期の対応が必要ということ、また、不登校支援では、本人を追い込まないように、フリースクールの支援につなげたり、無理に登校させないように対応が大切であったり、どこの自治体も同じように取り組んでいることがわかりました。2つ目の分科会テーマは地域と学校の連携協働についてでした。自治体によって、取り組みはさまざまなものでした。市内で1つの学校を試験的に始めた自治体や、どの学校も少しずつやっていくということで、今までの学校評議会みたいな形を発展させようということやってるところなど、目的は同じなんですけど、さまざまな形で、取り組んでる様子が伺えました。本市の場合には、今年度パイロット校として導入する学校がありますので、そこがもとになって次年度以降、発展していくこととなると思います。自治体によっては、教育委員さんも学校に入っていってるところもあり、それがすごく印象に残りました。教育委員も積極的に学校に関わっていくことも必要なのかなと感じました。また、人事権については、それは事業とは別にして、学校の方をお願いしてというような形で割り切ってやってるところでした。地域の方は、学校を支えるというようなことで、前向きにプラスに考えて動いてくださると。いろいろと情報交換ができました。</p>

教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>いじめ不登校については、指導課の方で何かありますか。</p>
教育部参事	<p>いじめについても不登校についても数で見ますと特にコロナ禍以降増えています。いじめも積極的に認知する。先ほども早く見つけて解消するというようなお話があったかと思うんですが、早く見つけて解消する、どんな小さなものでも認知して早く対応して解消していくというような方向で取り組んでいます。数としては増えていますが、学年を越えても解消しないというような件については、昨年から今年にかけてもありませんでした。積極的な対応というのが奏功してるのかなと思っています。不登校も増加しています。国の方の方向性として、学校の復帰を求めるだけが対応ではないというところが今あります。下妻中学校では校内フリースクールを立ち上げて取り組んでいます。また、サポートセンターも市内移転を予定していますが、取り組みに力を入れています。また、学校の中で校内教育支援センターのような取り組みも、もっともっと積極的にいろいろと考えていく時期にはなっているのかなと考えております。以上です。</p>
教育長	<p>不登校については、学力の保証をしなくてはいけないと考えています。どんな環境にあっても義務教育の期間に一定の学力を身につけさせるというのが、教育委員会の仕事なのかなと思ってます。</p>
赤荻委員	<p>先ほどの分科会の中で、他の自治体でも、地域の方の人材確保が課題のようでした。どこでも、退職された先生を中心に学習支援などは運営しているようですが、それも、同じ人がずっとやっていて、高齢化してるような悩みもあるということでした。お子さんに年齢が近い人を確保するのが難しいと。だから教員に限らずに、学習塾の先生やられたことがある方とか、IT関係のプログラムが得意な方とか、そういう人にパソコンを使って勉強を教えてもらうようなことも考えているようでした。教員に限らず、人を確保するということが進めていっているという自治体の話があり、どこも同じような課題があると感じました。</p>
齊藤委員	<p>下妻市も学習支援の寺子屋を月曜日の夕方、やっています。社会福祉協議会での取り組みですが、必ず2人、先生がついているのです</p>

	<p>が、退職公務員連盟の方からも出てくれているんですが。その指導者の人材確保が難しいというのは事実です。また、不登校の子については、子供たちにタブレット端末を渡して、家から外に出られないような子が、そのタブレットを使って学習をするとか、そういうのは大変なんじゃないでしょうか。</p>
教育部参事	<p>学校と子供と保護者が望めば、学校の授業をそのままオンラインで見せるというのもやる場合もあります。ただ、それを望む子というのは一時、何かの事情で来られないという事情にある子が多く、復帰が予想できる子たちは、そういった方法で取り組みますが。あとはe-ライブラリーと言いまして、A Iドリルなどで自分でやることはできます。ただそれは自分で進んでいくものになります。周りから声をかけてもらったりという刺激があれば、もしかしたら取り組むことができるかもしれませんが、自分1人でそれを開けてやれるかどうかという、そこのところは難しいところだと思います。</p>
青木委員	<p>学校へ行けないお子さんが、自分から自ら行きたいけど学びたいけどという意識が必要なのではないでしょうか。結局、そうするとお家にいらして誰かがそばにいないとならないかと。結局、本人が学ぼうという意欲がわからない場合は、なかなか難しいものがあると。</p>
教育部長	<p>子供食堂なんかも人材確保は大変そうです。立ち上げた後、継続的に夕方の時間帯に作ってくれる方を探すのが大変のようです。</p>
齊藤委員	<p>寺子屋も現在、中学生も対象にしていますが、やはり、なかなか指導者がいないと。退職公務員の方にご協力を依頼していますが、なかなか難しく、夏休みなどは大学生などもやってくれていますが。</p>
教育長	<p>赤萩委員さんから適正規模適正配置の話がでましたが、学校教育課の方から何か、それについてはありますか。</p>
学校教育課長	<p>今、作業を開始した時点なので現時点で何か決まってる訳ではなくて、まずは市民と保護者と、どんな考えがあるのかというのを確認して、それを踏まえて方向性を検討していくというところだと思います。先ほどのタイミング、いつの時点でという話があったと思いますが、最終的にいずれにしてもこのまま子供の数が減っていくということになると、はたして現状維持するのが一番いいかという</p>

	と、色んな形が考えられるのかと思います。アンケートの結果をみて検討するようにすすめていきたいと思います。何が最も子供たちにとっていいのかという、そういう視点で、我々だけではなくて外部の方も入っていただいた検討会で検討させていただければと思います。
齊藤委員	現段階で学校給食の方は千代川地区については方向性とかは、ある程度ついてきたんですか。
学校教育課長	まず今の常総市への委託をこのあと続けられるかどうかというのがあります。違う方法を選ばなくてはならない可能性がありますので、そうなったときに千代川地区だけで、各学校に給食施設を作るのか、千代川地区をまとめたセンターを作るのか、あるいは下妻市の自校式はだいぶ老朽化が進んでいる小学校が増えているので、それも含めて全部やるのかという形になってくると思うんですが。有力な方法の1つはセンター化というのはあるのかなと思いますが、近隣の状況を見ましても常総市も八千代町も筑西市も皆、センターでやっていますので。いずれにしても保護者の意見を聞きながらということになります。
齊藤委員	検討中ですね。わかりました。
学校教育課長	選択肢はいろいろありますし、財政状況も当然、見て考えて決めなくてははいけませんし、子供たちがどうすると一番いいのかなというのも非常に重要な視点と考えているので、その中で総合的に判断していくような形かなと思ってます。
齊藤委員	ありがとうございます。
教育長	学校給食と学校の適正規模適正配置を並行して、検討委員会を持って考えていくということですので、学校給食だけ考えても、学校はどうなっていくのかというのもありますので、両方考えてベストな結論を出すということになると思います。
赤荻委員	騰波ノ江地区の人に、騰波ノ江の学校なくなったら、ここ何にするのかなどと聞かれます。

青木委員	小さい学校ほど地域に根ざしてる。地元の人って自分の学校みたいな ながありますよね。
教育長	地域の方の思いというのも大事にしながら進めていかなくては いけないのかなと考えています。 その他、事務局からありますか。
学校教育課長	<p>【事務局からの連絡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度県西地方市町村教育委員会連絡協議会の視察研修会 ・次回の定例教育委員会について
教育長	では、以上で教育委員会の方を終了させていただきます。